だから、
みんな、
死んでしまえば
いいのに……

目次

では、
あなたは、何故、ココにいるの？
……ココにいても、いいの？

I 11 誕生 He was aware that he was still a child.

II 15 人の造りしもの A human work

III 19 雨、逃げ出した後 Hedgehog's Dilemma

IV 25 見知らぬ、天井 The Beast

V 29 嘘と沈黙 Those women longed for the touch of other's lips, and thus invited their kisses.

VI 35 戦い introjection

VII 39 両価性 ambivalence

VIII 45 最後のシ者 The Beginning and the End, or "Knockin' on Heaven's Door"

IX 51 魂の座 Weaving a story

X 53 せめて、人間らしく Don't Be.

XI 59 心のかたち 人のかたち Weaving a story 2:oral stage

XII 67 死に至る病、そして Splitting of the Breast

THE END OF EVANGELION

僕という記号

庵野秀明

幻冬舎

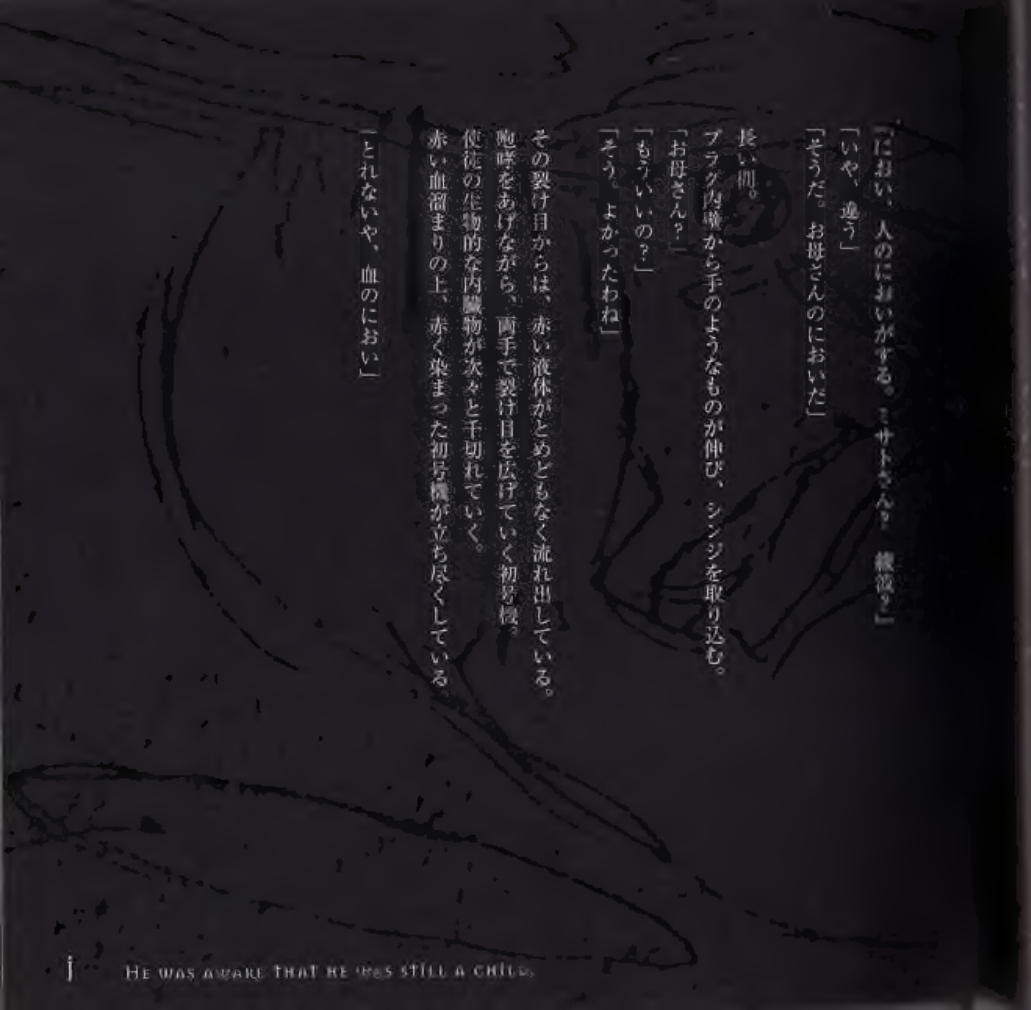
XIII 109 終わる世界 DO YOU LOVE ME?
XIV 117 DEATH
XV 125 REBIRTH
XVI 131 世界の中心でアイを叫んだけもの TAKE CARE OF YOURSELF.
XVII 137 まごころを、君に THE END OF EVANGELION

i

He was aware that he was still a child.

誕生

ブックデザイン
鈴木成一デザイン室
（鈴木成一＋岡田玲子）



「決めてくれた？」
「男だったらシンジ。女だったらレイ、と名付ける」
トランクの中。箱状の色付きガラス。
その中にひざを抱えて丸まっているヒトらしきシルエットが見える。
（まるで琥珀中の化石みたく）
「人類補完計画の要ですね」
「そうだ。最初の人間、アダムだよ」

「ここは？」
「ここはＬＣＬの海」
「プラグの中のＬＣＬ成分は化学変化を起こし、現在は原始地球の海水に酷似しています」
「生命のスープか」
羊水、の中を進むイメージ。
海中から見た太陽のイメージ。
海中から外に出るイメージ。
「母さん」
水の揺らぎ。その奥から光。

「においい、人のにおいがする。ミサトさん？　綾波？」
「いや、違う」
「そうだ。お母さんのにおいだ」
長い間。
プラグ内壁から手のようなものが伸び、シンジを取り込む。
「お母さん？」
「もういいの？」
「そう。よかったわね」

その裂け目からは、赤い液体がとめどもなく流れ出している。
咆哮をあげながら、両手で裂け目を広げていく初号機。
使徒の生物的な内臓物が次々と千切れていく。
赤い血溜まりの上、赤く染まった初号機が立ち尽くしている。

「とれないや、血のにおい」

II

A HUMAN WORK

人の造りしもの

窓外に広がる広大な死の海。
「いかなる生命の存在も許さない死の世界、南極。いや、地獄と呼ぶべきかな」
「だが、我々人類はここに立っている。生物として、生きたままだ」
「科学の力で守られているからな」
「科学は人の力だよ」

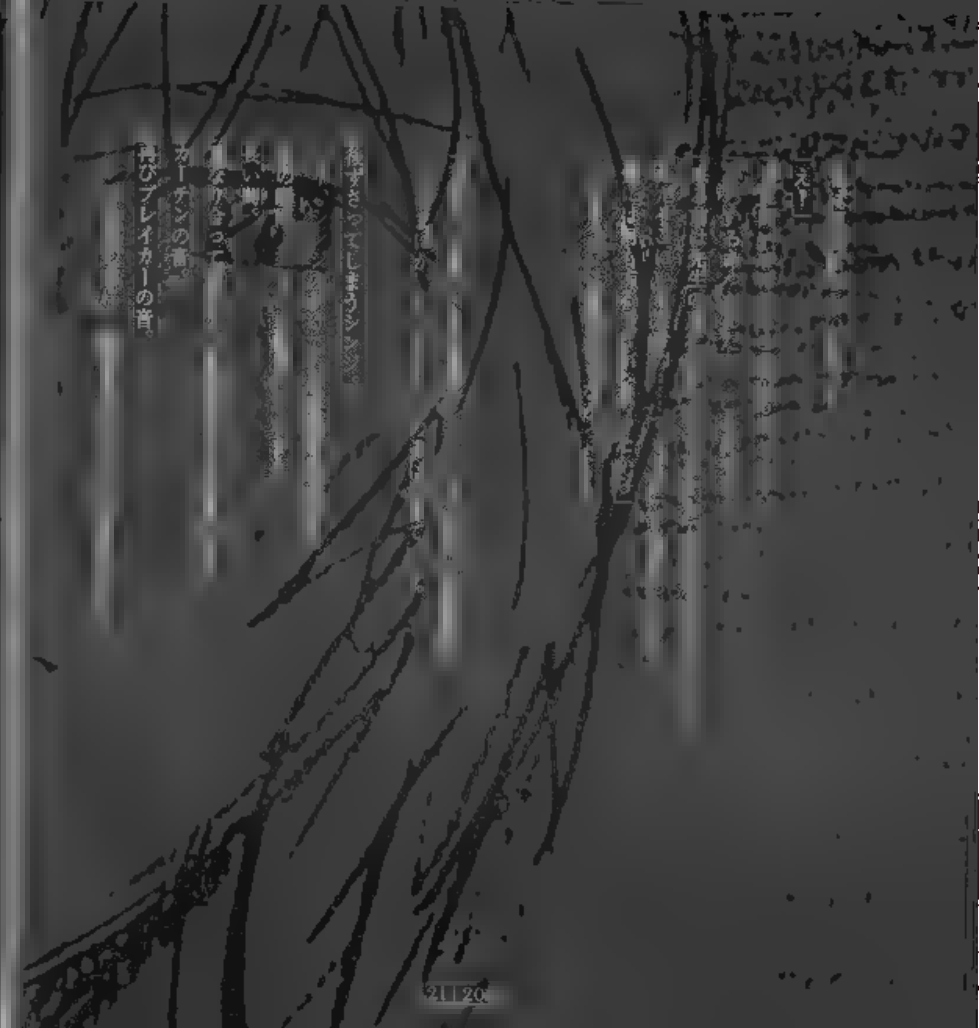
夕日の中。人工の街。
「街か。人の造り出したパラダイスだな」
「かつて楽園を追い出され、死と隣り合わせの地上という世界に逃げるしかなかった人類。その最も弱い生物が、弱さゆえに手に入れた知恵で造り出した、自分たちの楽園だよ」
「自分を死の恐怖から守るため、自分の快楽を満足させるため、自分たちで造ったパラダイスか」
「敵だらけの外界から逃げ込んでる、臆病者の街さ」

「人は闇を恐れ、火を使い、闇を削って生きてきたわ」
「自分の弱い心を守るために」
「自分の快楽を守るために」
「閉鎖された、自分ひとりが心地よい世界を君は望んだ」
「あなたは世界の、自分を取り巻く世界の閉塞を願った」

「これは、その結果に過ぎないわ」
「嫌いなものを排除し、より孤独な世界を願った、あなた自身の心」
「それが導き出された小さな、心の安らぎの世界」
「結果、この有様だ。与えられた罰にしては、あまりにも大きすぎる。まさに死海そのものだよ」
鳴り出すサイレン。山に木霊する音。
道路や建物にかかっている大規模な防御シャッターが開いていく。
地下に収納されていたビルが地上に戻っていく。
シンジの眼下にひろがっていく大計画都市。
街のあちこちから、生き物のようにはえてくる高層ビル群。
稜線が薄く明るい夜空にそびえる、墓石のようなビルのシルエット。
「これが、使徒迎撃要塞都市、第3新東京市。私たちの街よ。そして、あなたが守った街……」
「何だか寂しい街ですね」
「だが、原罪の汚れなき、浄化された世界だ」
「俺は罪にまみれても、人が生きている世界を望むよ」

夜。空一杯の星。

……（駄目にならない）
先、行くから
その時、サイレンが鳴る。
「あなたは死なないわ
私が守るもの」
の声のみ。
もいない廊下にトウジが来る。


「え！」
カーテンの音。
ブレイカーの音。

空舞台。
窓の外はどしゃぶりの雨。

先、行くから。

レイ（さよなら）

（顔は見せない）

ミンジ、（顔は見せない）

人が嫌いなのかい？

でも父さんは嫌いだった

IV

THE BEAST

虚と沈黙

「好意に値するよ」

「よくやったな、シンジ」

「父さんが？」

「わからない」

「そう……」

「綾波は、何故コレに乗るの？」

「絆？」

「そう……絆」

「みんなとの」

「よくやったな、シンジ」

「嬉しいのよ！」

うん

は 他に何もないもの……

の 事を

「自分をだまし続けて？

たのしいことかな」

つらいのは 嫌いか？

「帰れ」

聞きたくない！

事を逃げて

がないんだよ。将に優はね

たのしいこと見つけたかい？

「知らないのか」

でもこの

さんのことから」

「逃げちゃ駄目だ。逃げちゃ駄目だ。逃げちゃ駄目だ。」

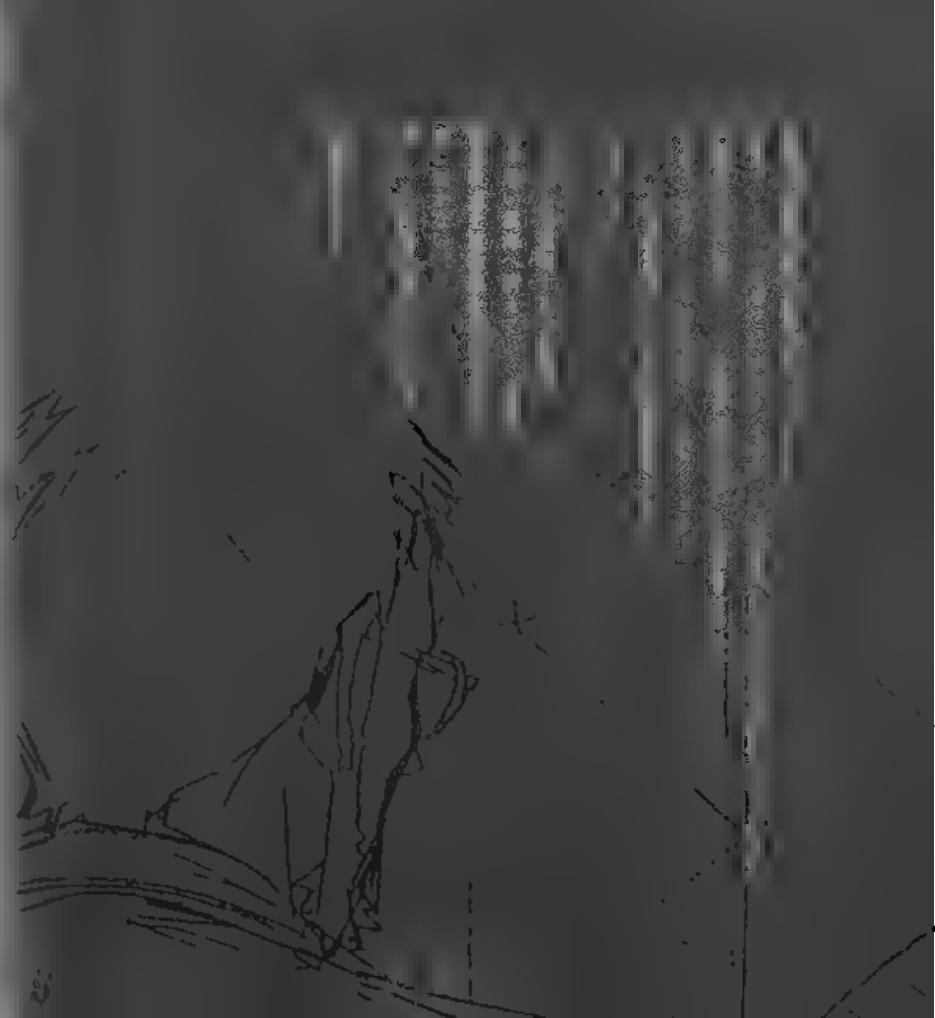
「敵、敵、敵、敵、みんな敵。」

「敵、敵、敵、敵、僕の敵。僕の……僕の……敵」

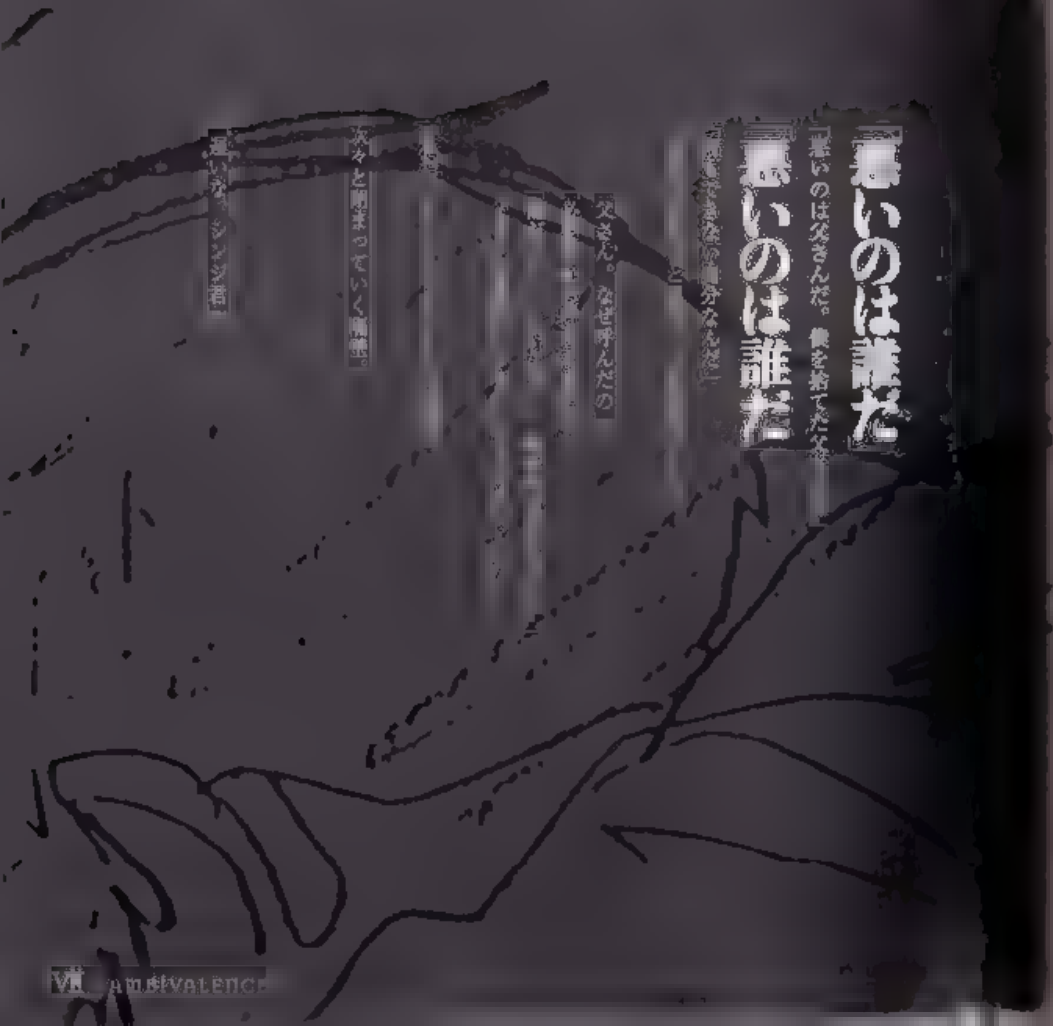
VII

AMBIVALENCE

命の選択を



うそつき



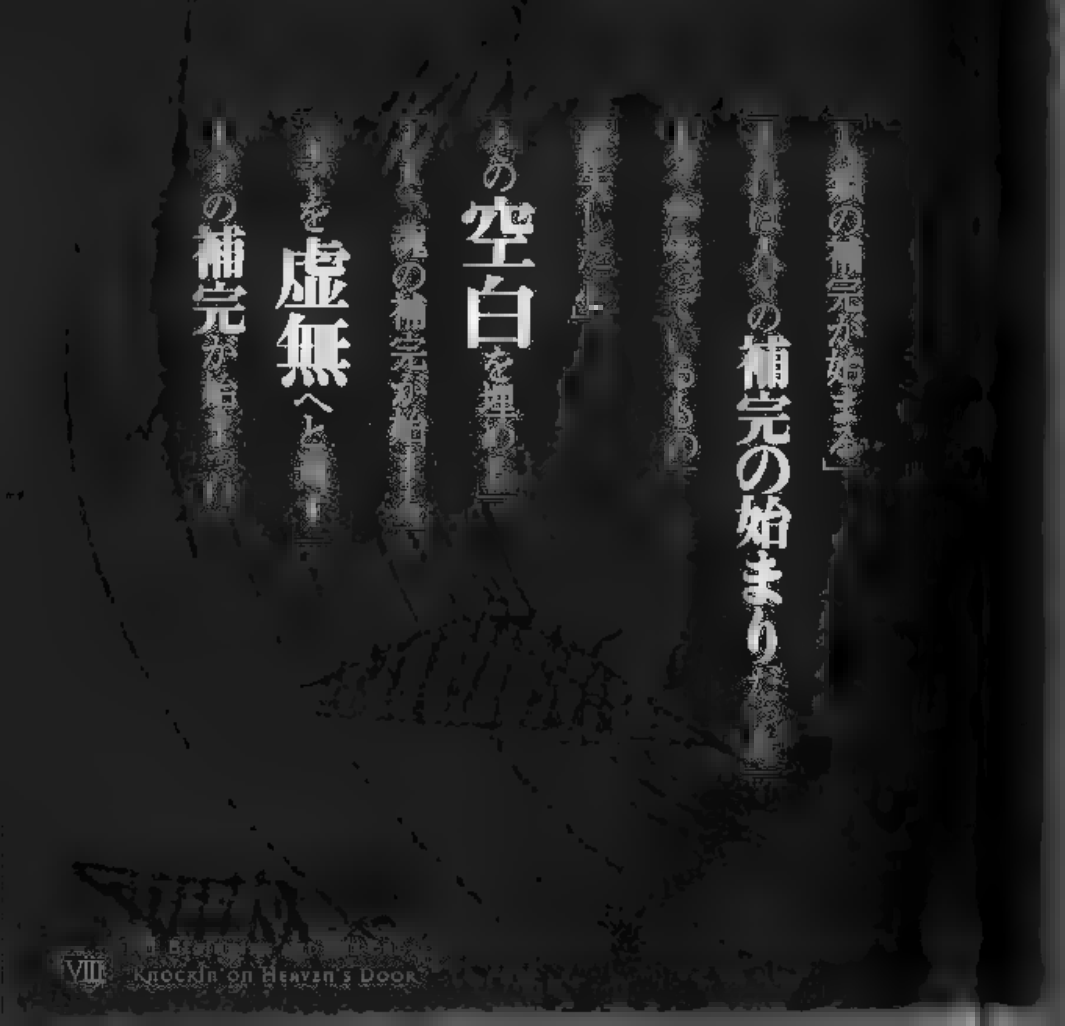
では、出て行け
はい。そのつもりです
僕を裏切った父さんが
お父さんがわからないの？
わかろうとしたんだよ!!
父さんは僕がいらないんだ
自分から逃げ出したくせに
父さんが僕を捨てたんだ！

VIII

最後の少者

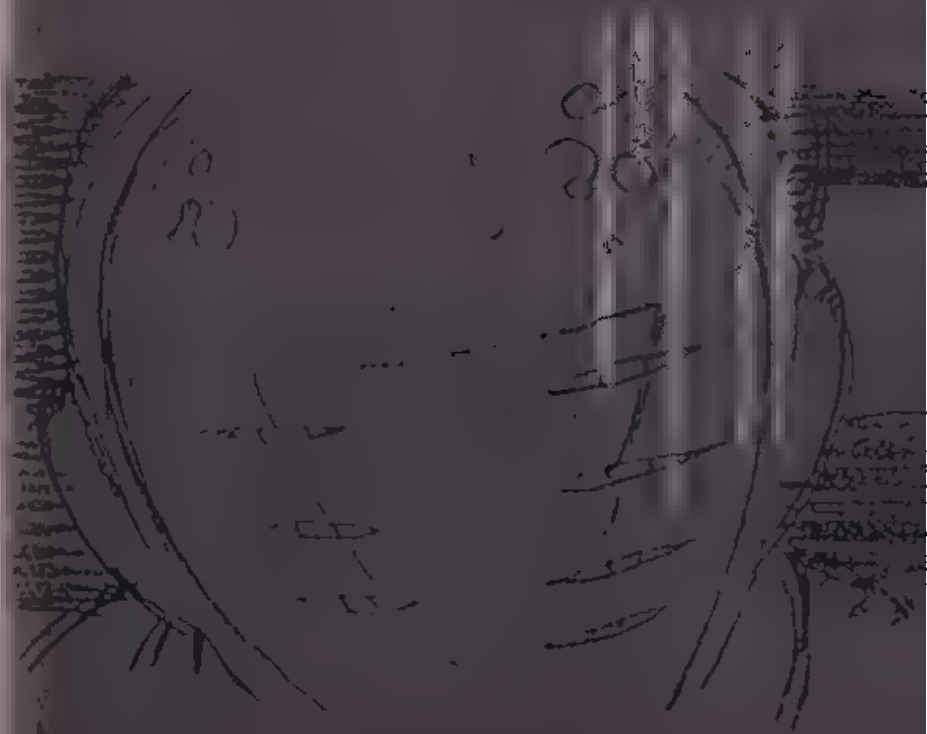
「時が来る」
「約束の時が」
「全ての人々が

「嫌。後戻りはできんぞ」
「シンジ君。時間がないわ
乗りなさい」
「神の、プロトタイプが」
「約束の時は近い」
「その
「来る」
「時が来た」
「はい」
「もうすぐだよ、ユイ」
「約束の時は、その日となる」
「時間よ、行きましょ」
「はい」


「最終安全装置解除！」
高高度の空
抜けるように青い空
では、儀式を始めよう
「この補完が始まる」
「この補完の始まり」
の空白を埋め
を虚無へと
の補完が

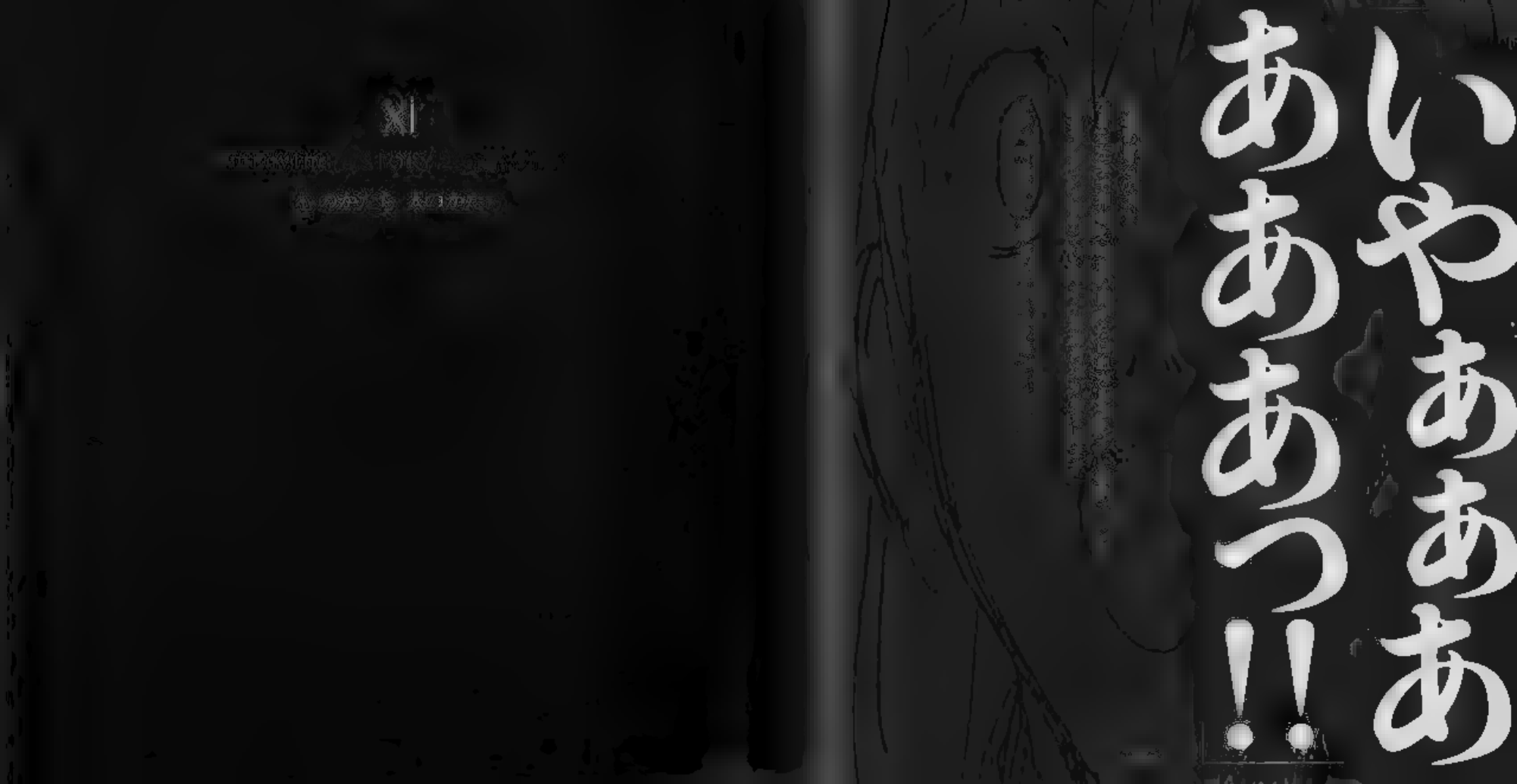
IX

魂の座



父さんが僕を捨てたんだ！
その代わりが私なの？
悪いのは誰だ
お願い
一緒に死んでもらうだ
誰も私を見てくれないもの
ママも
がんばってね
がんばれ
がんばれよ
よくやったな

だから私を見てエー


いやあああ
あああっ!!

「A.T.フィールド！」

ひとりで、ですか？

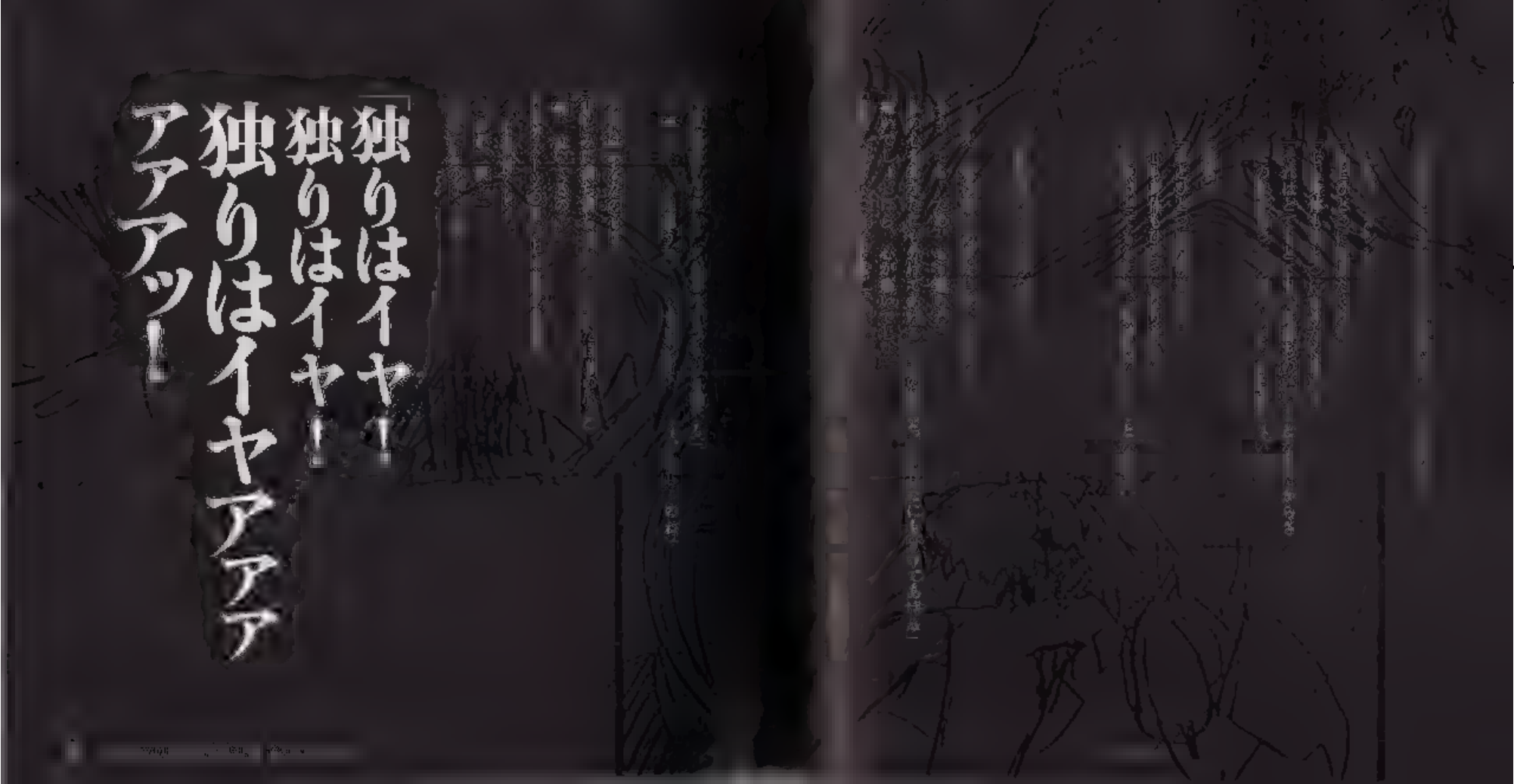
ひとりがイヤなんでしょ

私たちはたくさんいるの

それを寂しい、と言うの

ねえ、シンジ君

私とひとつになりたい？


「独りはイヤ！
独りはイヤ！
独りはイヤアアアアアッ！

「何を願うの？
何を願うの？
何を願うの？
何を願うの？

の瞬間、彼の美顔を見るレイ

発する青3新東京市

だた立ちすくす　西暦

「何を願うの？
「何を願うの？
「何を願うの？
「何を願うの？

の眼は、何も見ていない

XII

死に至る病、そして

これは誰？　これは私
私は誰？　私は自分
自分は誰
あなた誰？

誰？
碇シンジ
それは僕だ
僕は君だよ
二人は
二人の
あのとき
自分と
二人？

本当のあなたは他にいるのよ
何人もいるんだ
も本物の碇シンジさ
あなたが偽らないだけ
チョップ「痛いから

嫌い！嫌い！大っ嫌い！

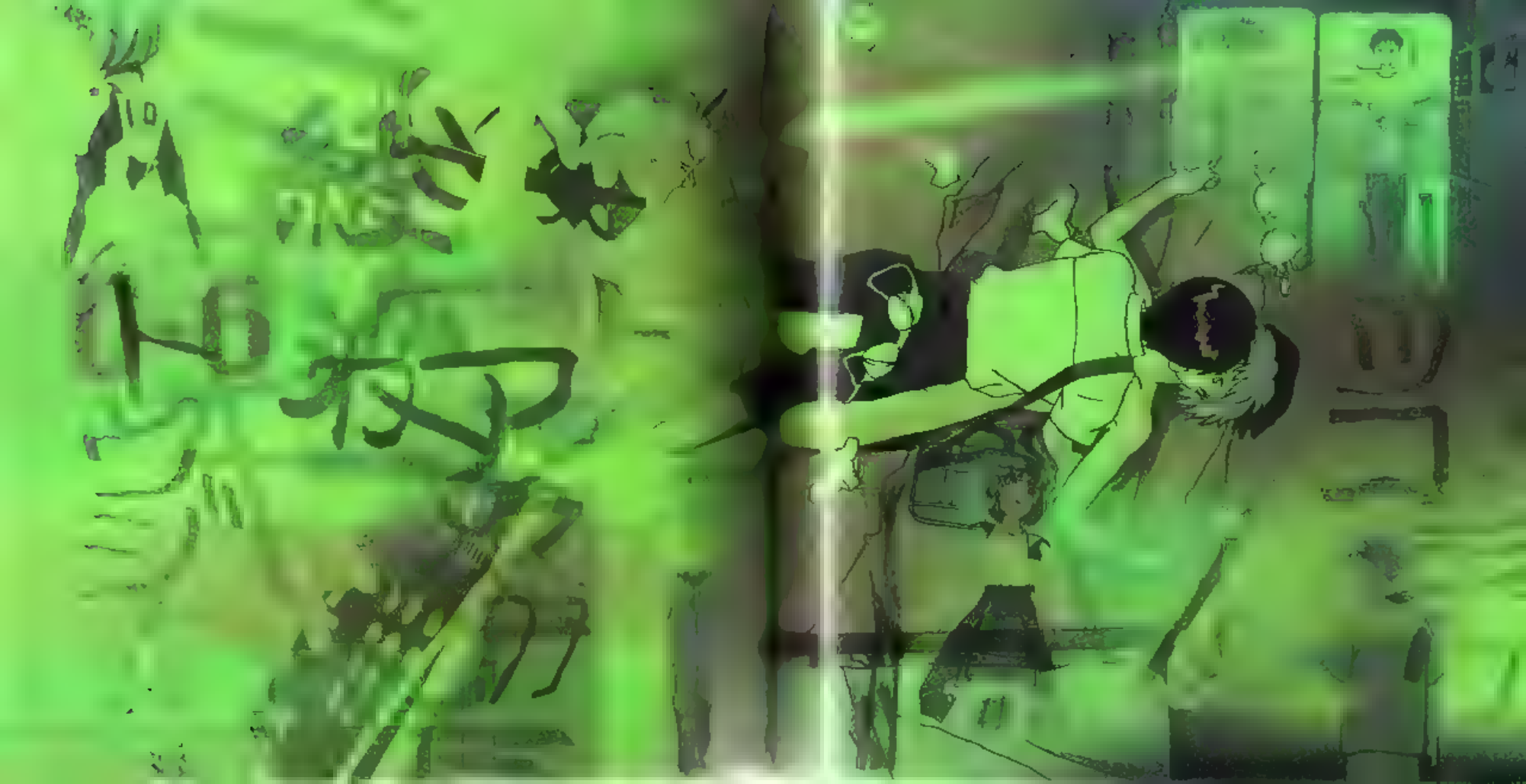
私には価値がないから、エゴサに乗ってる

私は、エゴサに乗っているから

何もわかってない

自分がヒトのために

やさしさなんか、かけらもな



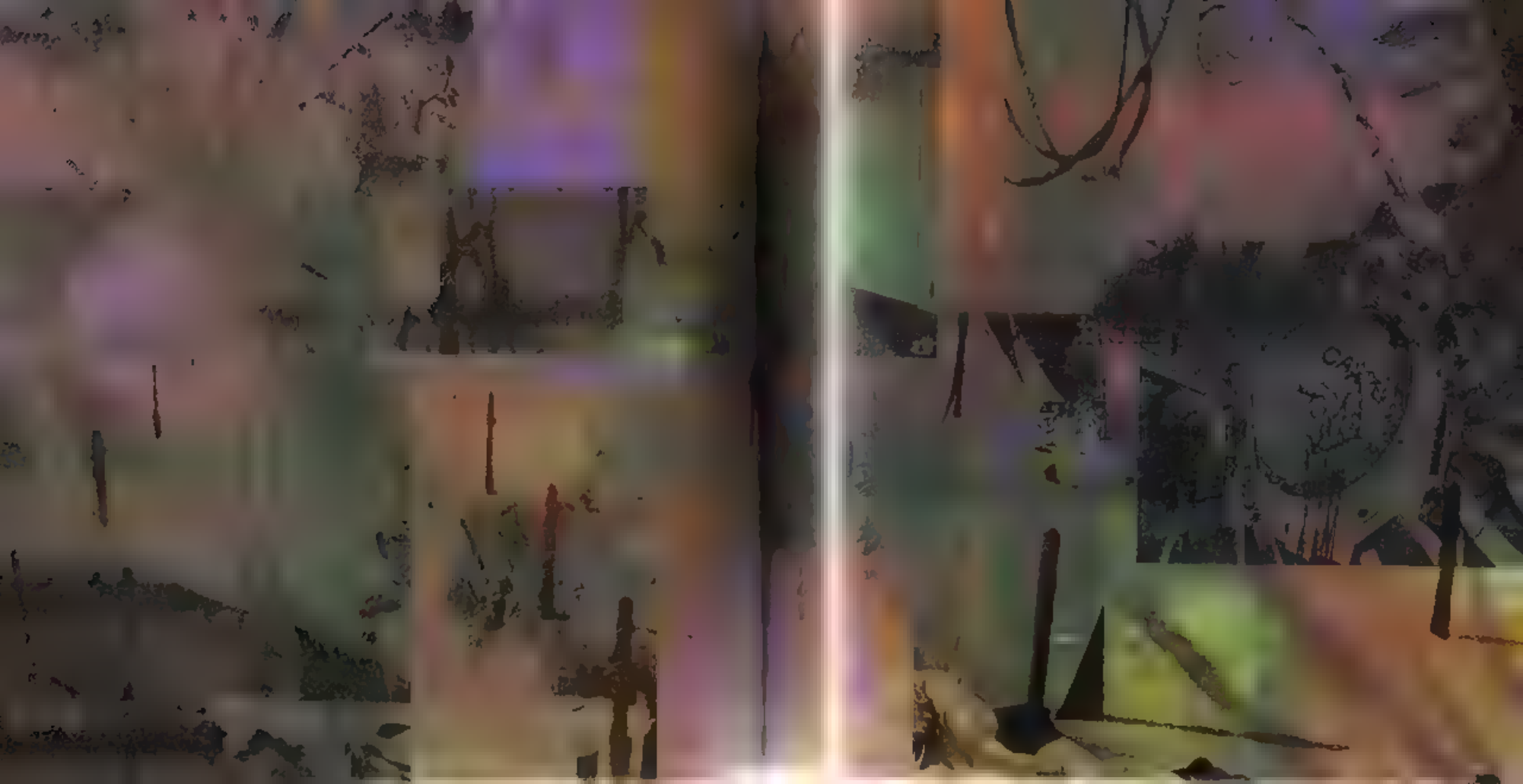
17th
ANGEL
EVA-01

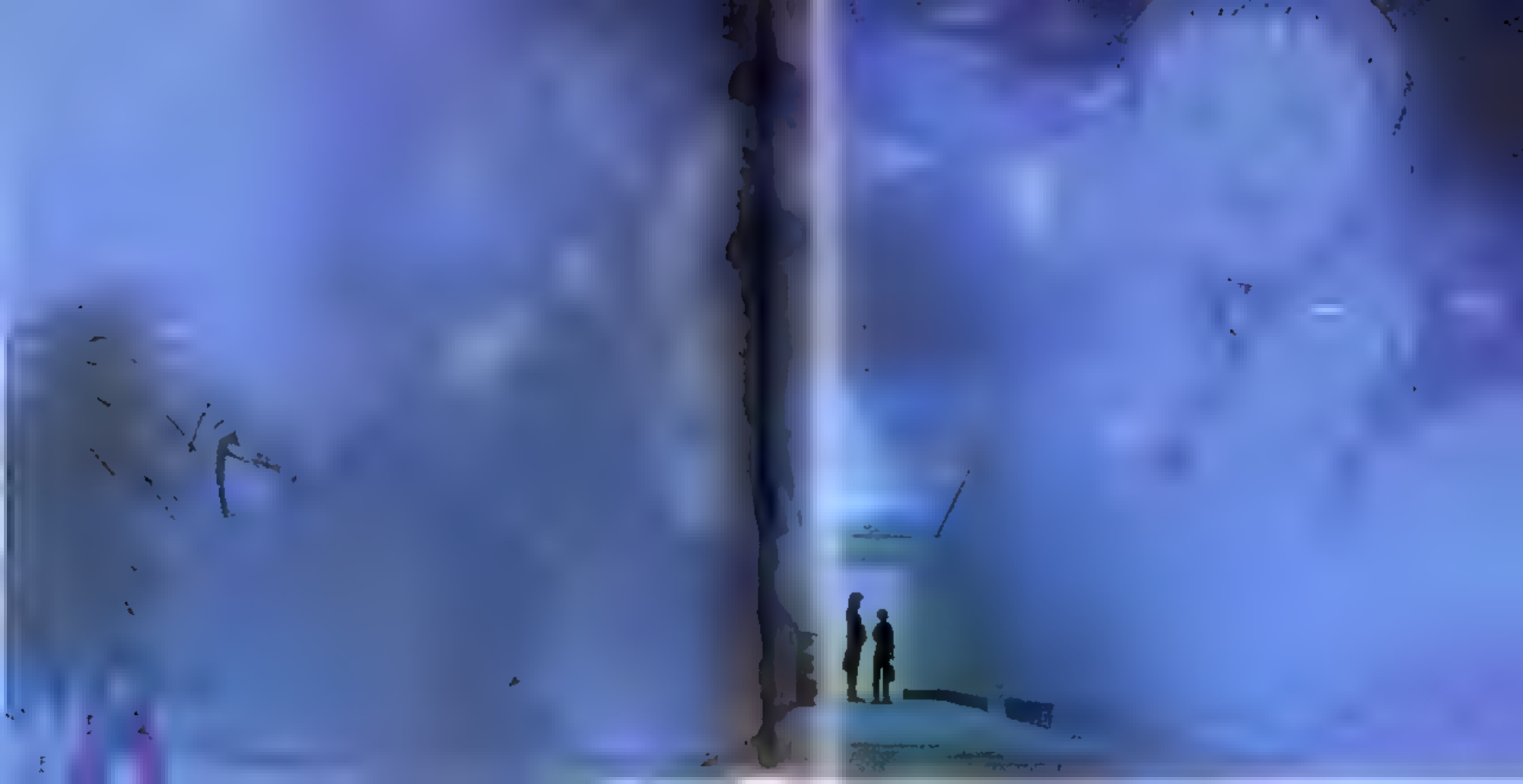
NERV

「よいこでいたいの？
「いいよ！」

LOCKED

EVA-02 IN OPERATION
ENTRY PLUG NOT PRESENT
UNMANNED
CHECKED BY MAGI - 1 2 3





XIII

DO YOU LOVE ME?

終わる世界

私、何故ここにいるの
私、何故また生きてるの
何のために
誰のために
無理にも開れた蓋。
自分のみたいで。
ねえ、キスしようか
ダメ。
それとも、怖い？
子供のするもんじゃ
何か役に立ちたいんだ
「ばか」
ウソだね
あんた誰でもいい
誰かに依存しないと
自分しかここにいない
わかってるよ
わかってないよ
教ってやれると思ってるの？

わかるはずないわ!!

もいるわ

いくじなし

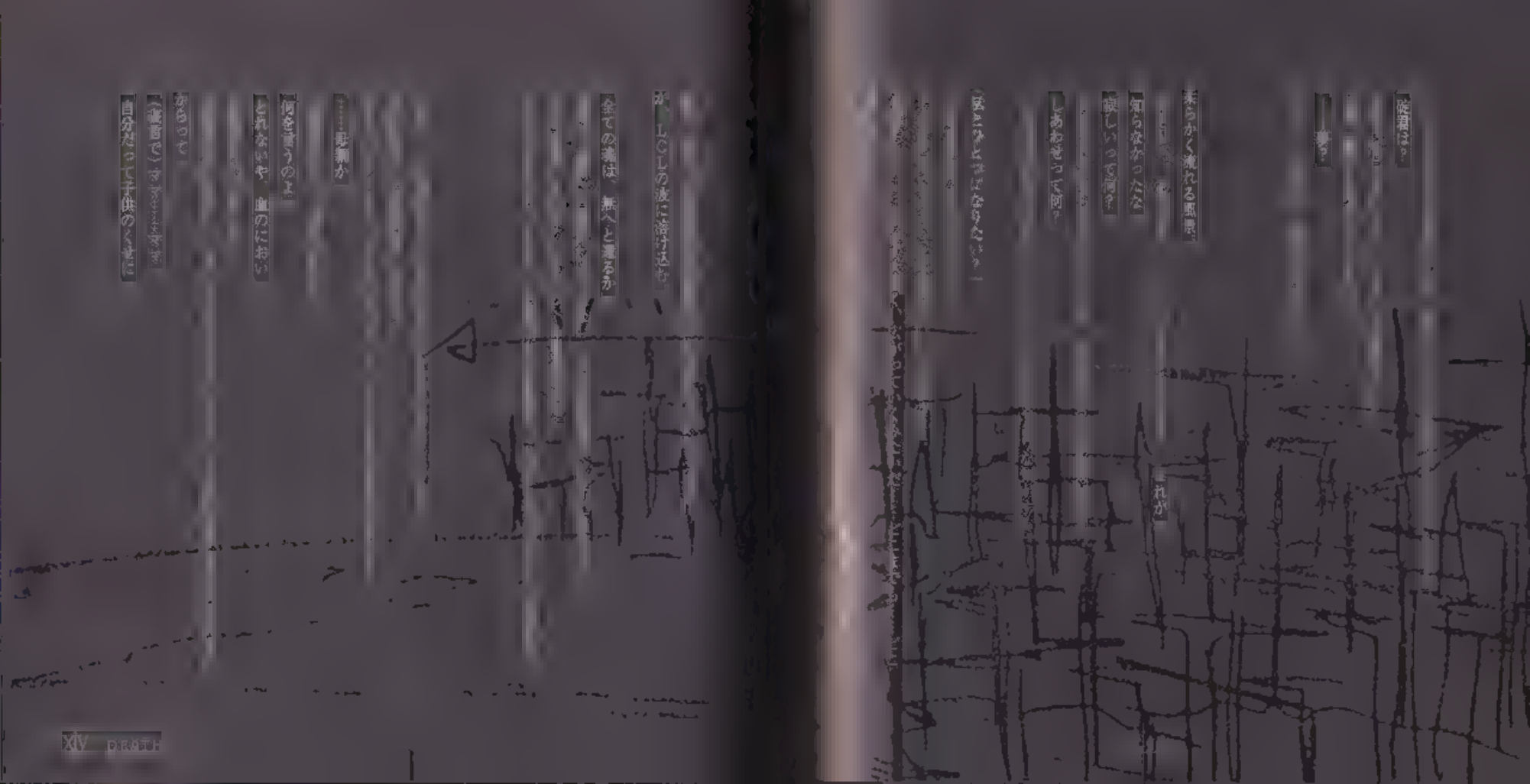
ダメなのね もう

絶叫

（叫び）もう
いやだっ!!

テロップ『無言』

XIV


碇君は？
寒？
柔らかく流れる風景
知らなかったな
嬉しいって何？
しあわせって何？
哀とひとはなりたい？
それが
が LCLの波に溶け込む
全ての魂は、無へと還るか
……影絵か
何を言うのよ
それないや 血のにおい
からっぽ
「最後でさえ……」
自分だって子供のくせに
XIV DEATH

『私を見て、ねえママ』

使徒とともに爆発する零号機。
蒸発する第3新東京市。

『私を殺さないで』

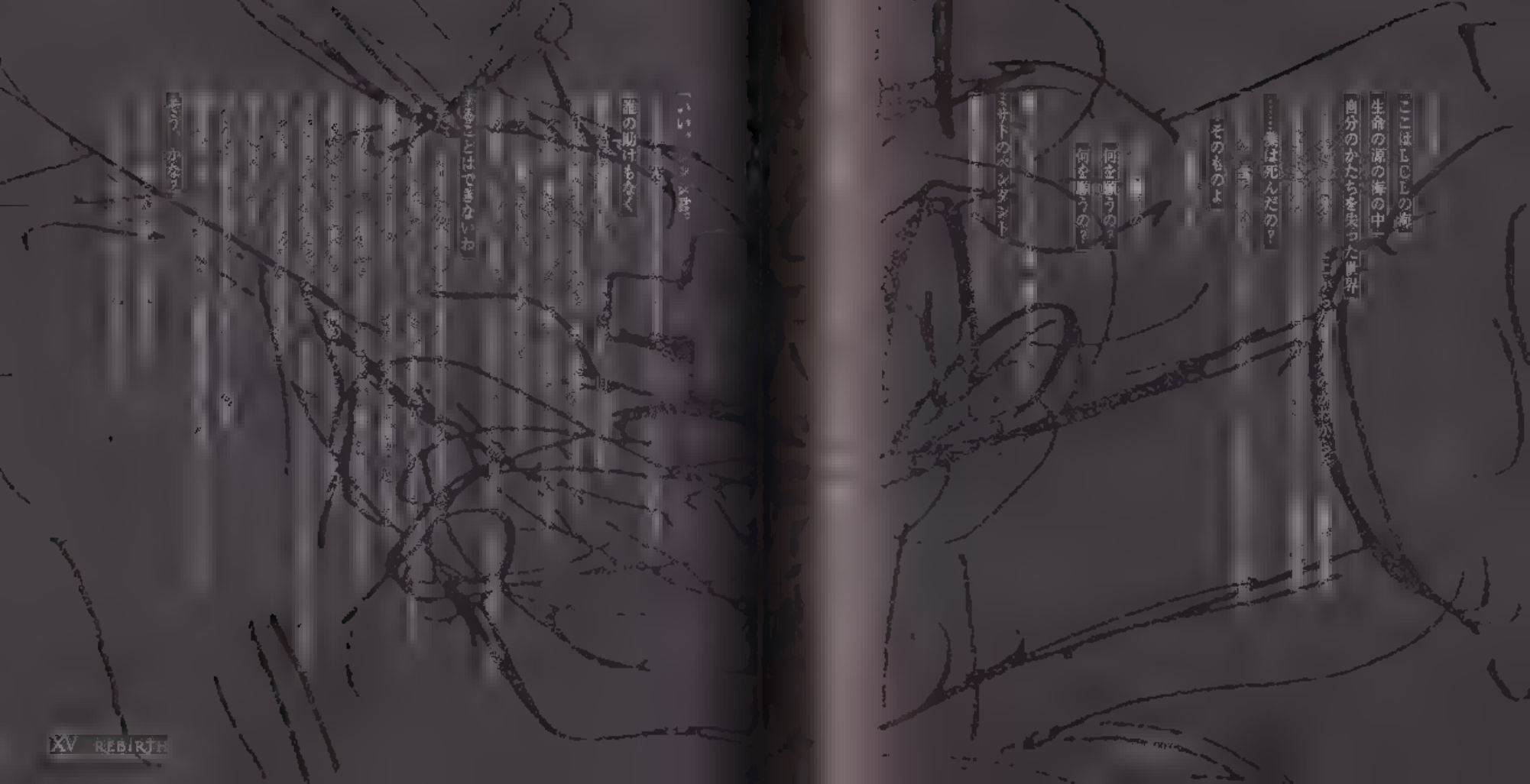
殺してやるっ!!

だからみんな

死んじゃえ

どう、気持ちいい？

IV
「ここには僕がいない」
現実の夜
「いじゃが、
僕の夢はどこ？
「それは、現実の続き
僕の現実はどこ？
「それは、夢の終わりよ
現実の昼の合い


ここはLCLの海
生命の源の海の中
自分のかたちを失った世界
……僕は死んだの？
そのものよ
何を願うの？
何を祈るの？
誰の助けもなく
まるでことばできないわ
まう、かなう

約束よ

何を願うの？

[illegible]

[illegible]

[illegible]

XVI

TAKE CARE OF YOURSELF

世界の中心でアイを叫んだけもの

【僕は、僕のいたところに帰る】
【今も、これまでも、これからも、何もないことはないかもしれないけど、
僕はそこに帰る】
【もう、いいのね】

かよ、これからも僕と続ける。

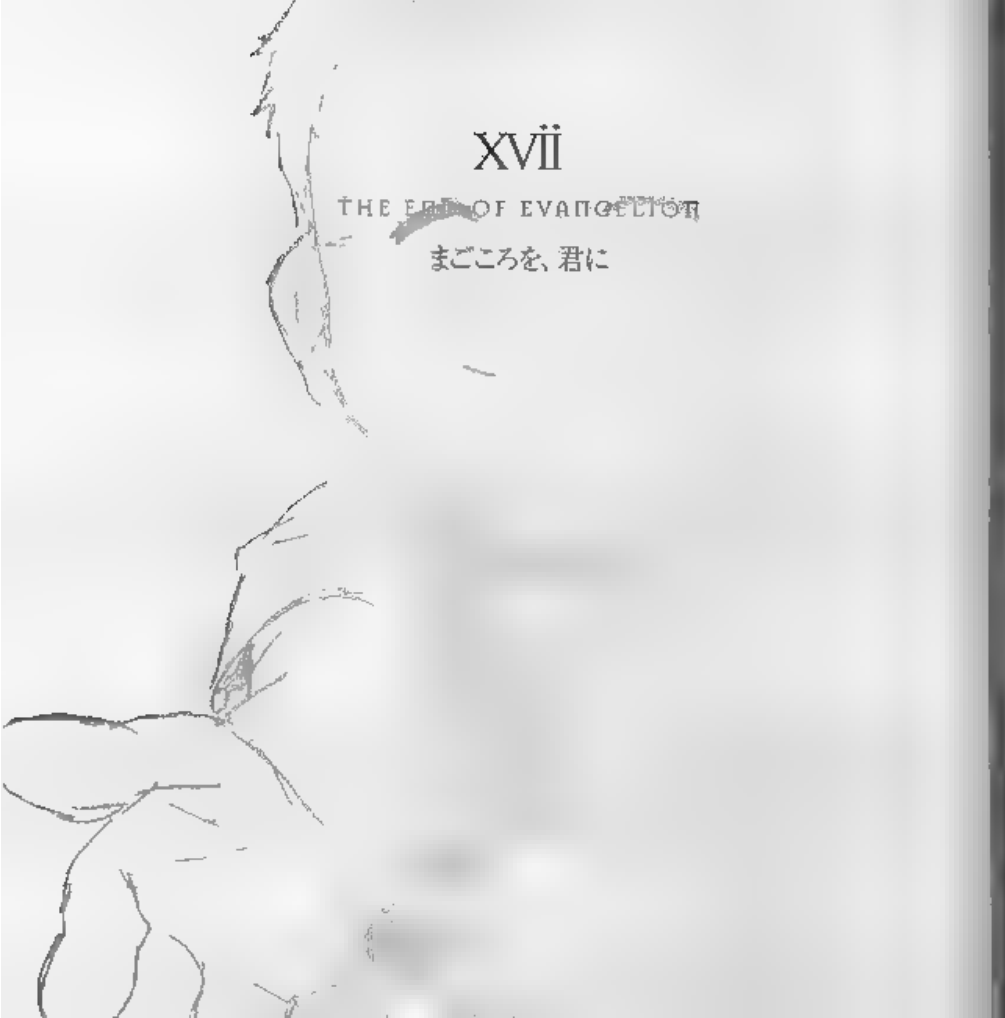
「つらいのは嫌いか？」
「好きじゃないです」
人間は 悲しさを 永久に なくすことは できない 人は ただ 忘れることが できるから 生きていけるのだ」

「だが、決して忘れてはならないこともある。
ユイはそのかけがえのないものを教えてくれた
私は この確認をするために、ここへ来ている
ここまでも私へ影 人な数の墓標が並ぶ墓園
どれも同じ簡素な作り。ただ棒が差してあるだけ。
1本だけけり倒されたものがある。
少し離れたところにひっそりと碇
ある墓の前にかがみ、花を供えている。
『HARI YUI 1977 2004』と墓碑銘が刻まれている。

「写真とか、ないの？」
「残ってはいない。この墓もただの飾りだ。遺体はない
先生の言ってた通り、全部捨てちゃったんだね」
父さんが僕を捨てたんだ
「父さん、僕はいらない子供なの？」
「今では心の中だ。今はそれでいい」

現実は知らない方
夢は現実の
「そして、現実はいつの日にある」

[illegible] 何 [illegible]
[illegible] 悲しいことというなよ
[illegible] なん [illegible] そんなこと [illegible]
何 [illegible]
[illegible]
なんで私、泣いてるんだろう。もう泣かないって決めたのに」



XVII

THE END OF EVANGELION

まごころを、君に

「これが、涙？」
「初めて見たはずなのに、初めてじゃないような、気がする」
「私、泣いてるの？」
「何、泣いてるの　、？」
「　」
「ごめんなさい・・こういう時、どんな顔すればいいのか、わからないの」
「笑えばいいのよ」

「これが、涙」

ホームに止まったままのローカル線。蝉の声。
全線運転中止（再開不明）の掲示板。
全ての信号が赤を点灯している。路肩に放置されたままの車。
シャッターの降りている町並み。
動くものが、何もない。

半分水没し、すでに朽ちている旧市街。ＳＥは水鳥と蝉の声。
線路や道路が、途中から海にのまれている。
山を崩して造られている新市街。平野がない街並み。
水平線上に起こる巨大な水柱。

海中から見た太陽のイメージ。
海中から外に出るイメージ。

光の向こうにミサトの顔。
「何を願うの？」
「何を願うの？」
「何を願うの？」
「何を願うの？」

「ただ会いたかったんだ、もう一度」

「つまりサルベージとは、彼の身体を再構成して、精神を定着させる作業です」
（「帰ってきたの？」
「ううん」
「そう、よかったわね」
静かに、音もなく、消え入るように、再び眠りにつくレイ。
を、見ているシンジの表情。）
彼の目線の先に立つ、二人の少女。（レイに似ている）
鳴きながら飛び立つ鳥の音。気を取られる少年。
目線をもどす。
が、少女はもういない。

「ねえ、シンジ。キスしようか」

「え？　何？」
「キスよキス。」
「したことないでしょ」
「うん　」
「じゃ、しよう」
「ど、どうして？」
「それとも怖い？」
「怖かないよ。キスくらい」
「じゃ、いくわよ」

砂上に横たわっているシンジとアスカ。
何もせず、触れ合わない、人の手。

THE END OF EVANGELION

「僕という記号」

1997年8月5日　第1刷発行

著者
庵野秀明

発行者
見城 徹

発行所
株式会社 幻冬舎
〒160 東京都新宿区四谷1-22-6
電話 03-5379-9011(編集)
03-5379-8096(営業)
振替 00120-8-767643

印刷・製本所
凸版印刷株式会社

検印廃止

Printed in Japan

編集
野火ノビタ

協力
貞 義行
鶴巻和哉
摩川松尾
樋口真嗣
山口 宏
(以上、『新世紀エヴァンゲリオン』シナリオ・スタッフ)

編集
石原正康(幻冬舎)
吉崎慎弥(幻冬舎)
福嶋 圭(幻冬舎)

装丁
[illegible]
講談社製コンテより

THE END OF EVANGELION

THE END OF EVANGELION 僕という記号

庵野秀明

幻冬舎

詩篇「新世紀エヴァンゲリオン」

初回限定
ポストカード
入り!

監督・庵野秀明が紡ぎ出す言葉の世界。人々の心と、魂を補完し、
人類は新たな進化の段階を踏む。壮大な神話、ここに完結。

幻冬舎 定価(本体1400円+税)

GENTOSHA

GAINAX公認、劇場版公開記念本!

ISBN4-87728-171-1

C0095 ¥1400E

9784877281717

幻冬舎 GENTOSHA

定価（本体1400円+税）

1920095014005

「人類の補完が始まる」「それは人々の**補完の始まり**だった」

「人々が失っているもの」「喪失した心」「その**空白**を埋める」「心と、魂の補完が始まる」「全てを**虚無**へと還す」「人々の**補完**が始まった」

庵野秀明が「エヴァ」に託した最後のメッセージ。

THE END OF EVANGELION

僕という記号

庵野秀明

新世紀エヴァンゲリオン 完結!!

幻冬舎